

2019—
2020

03

AKITA UNIVERSITY OF ART

7月

クリエイター向け助成金を獲得！

デジタルアーティスト、イラストレーター、漫画家などを旨す全国のクリエイター志望の若者を支援する一般財団法人上月財団「クリエイター育成事業」選考会に合格。年額60万円の助成金を獲得した。



8月

インターンシップ

- ・大学のキャリアデザインの授業に訪れたアニメやゲームの背景美術制作会社の社長に直談判して、約1週間のインターンシップ。
- ・ソーシャルゲーム開発会社のインターンシップは8月後半から10月上旬までの約1カ月。毎週のように上京してチームでゲームをつくるというプロジェクト型だった。

9月

ファッションショーに出演！

- ・ファッションショーにモデルとして出演。「再生」をテーマにした衣裳とメイク。
- ・学祭展示で「獣から肉へ」が最優秀賞を受賞。



12月

秋美生物部活動報告展「いきものっておもしろい。」

生物の形態、構造、生態などを学ぶだけでなく、骨格標本の作成、水族館などとの連携、狩猟免許の取得、作品制作まで広がりを見せる生物部の活動報告展を秋田市新屋ガラス工房で開催。



構造や生態、生息する環境など
クリーチャーのストーリーを描いて、
圧倒的な瞬間を切り取る

「鹿肉は
解体作業をした
みんなでしっかり
味わいました。
おいしかったです」



工藤 夏鈴

秋田公立美術大学
コミュニケーションデザイン専攻
山形県山形市出身
屋久島おおぞら高等学校卒業

新屋地区のアパート(家賃35,000円)に一人暮らし。夕方に帰宅後は自炊して、筋トレして、深夜まで制作する日々。高校時代にアルバイトと予備校と制作に翻弄された日々を経験して「大学では制作に没頭したい!」と決意。アルバイトなしで、わずかな仕送りと奨学金、賞金のみで生活する。「動物を描くには、筋肉や骨を含めた全てを確かめる行為をすべき」との信念から秋美生物部に所属。子どもの頃は獣医さんになったかった。

11月

ニホンジカを解体

1. 美術解剖学の研究のために岩手県の猟友会からニホンジカを提供してもらう。
体長120cm、体高70cm、体重90kg前後
2. 秋美生物部で解体作業。90kgの鹿を引き上げ、吊り下げる。
3. 汚れを洗い流して、開腹。内臓を確認しつつ取り出していく。
4. 毛皮を剥ぐ。最終的にはなめして標本とする。

1月

秋美生物部「骨学と狩猟学」

北大の獣医学部の先生を招いて狩猟学、解剖学を講義していただく。「私のようにクリーチャーデザインをする学生、漫画やイラストを描く学生、骨のスケッチをしたい学生、獣医さんになりたかった人にも来てもらいたい講義でした」

2月

カマイルカ

急ぎよ、男鹿水族館から全長180cmのカマイルカの遺体を提供いただくことに。生物部の先輩が引き取りに行く。

ロゴマーク制作

Red Bullを物々交換しながらヨーロッパを旅する企画に参加する国際教養大学(秋田市)のチームのロゴマークを制作。



無意識の固定観念に挑む仕掛け
が面白い、メカニカルパズル。
形に対する純粋な驚き、
意外性を大切にしたい

浅香 遊

秋田公立美術大学
ビジュアルアーツ専攻
群馬県高崎市出身
群馬県立富岡高等学校卒業

新屋地区の一軒家で一人暮らし。家賃は破格の18,000円。大学に届けを出して23:00まで学内で制作するタイプ。3年後期の授業課題で初めてジグソーパズルをつくってから、卒業制作まで5種類を制作。世界パズルデザインコンペで入賞後は世界各地から問い合わせがあり、現在は量産に向けて各方面と調整中。パズル制作と販売で忙しい毎日。

(2019年3月卒業)

「制作、エントリーを
手伝ってくださった方と
レーザーカッターに感謝です」



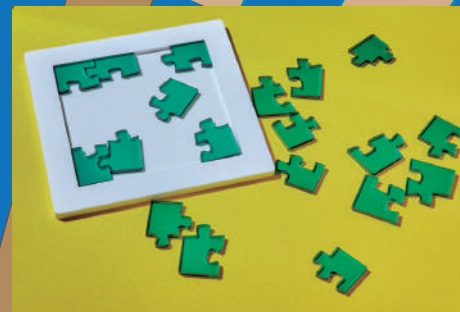
「人生のちょっとした二人」

ココラボラトリー（秋田市）にて、かつて同居していた先輩・振本聖一さんと2人展を開催。「やっと自分の作りたいものを素直につくれるようになってきた」という振本さんと、「風景画や幾何学的な表現に興味を持っている」という浅香さんの平面作品のコラボレーション。「自分のアクリル画はまだ画風が決まっていない…」

8月

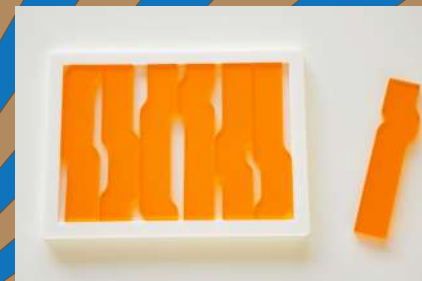
国際大会で入賞！

アメリカ・カリフォルニア州のサンディエゴで開催された「Nob Yoshigahara Puzzle Design Competition 2018」（世界パズルデザインコンペティション）にビジュアルアーツ専攻で制作したパズルの改良版「Jigsaw Puzzle 29」を出品して入賞！



新しいパズル「Jigsaw 19」が完成。
達成時間の平均は40分ぐらい。

10月



波型をした「Wave 7」完成。形に対する解のギャップが大きくなるように意図。

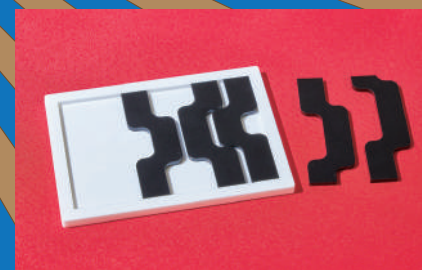
12月



「Ice 9」完成。最初に作った「Jigsaw 29」が比較的簡単に解かれてしまった悔しさから、より難しいものにしようと制作。

2月

「Wave 7」の応用で作った「Wave 5」が完成。数字はいずれもピースの数。



卒業・修了研究作品展「カモステイク」にパズル5作品を「PLAY TIME プレイタイム」として出品し、学長賞を受賞。その後、カナダの有名ユーチューバーがパズルを解く動画を投稿して再生回数が600万回以上を記録した。「人の無意識に共通する暗黙の了解・ルールを仕掛けとして取り入れて、固定観念に対する気づきを得ることができたらと思って制作しています」

3月

学生生活のリアル



新屋が好きで、このまちの人が好きで。
顔を覚えてくれて、イベントの時とか
声掛けてもらえるのがめっちゃ嬉しい

内記 深幸

秋田公立美術大学
ビジュアルアーツ専攻
岩手県北上市出身
岩手県立黒沢尻北高等学校卒業

秋美生 2人と共にシェアハウスで暮らす。
一軒家の家賃は1人 25,000円、光熱費は
3人で等分する。大家さんからは嬉しい差し
入れがしょっちゅうあって、食べ物には困ら
ない。昼ごろまで不動産屋でアルバイトをし
てから大学へ行き、23:00まで活動や制作
の日々。3年まではサークル「あらやちやぶ
ちやぶ大学」、4年次には「高校生クリエ
イティブキャンプ」「旧県美再生!ワーク
ショップ」といったプロジェクトにも参加。
写真が趣味で、人を撮るのが好き。
(2019年3月卒業)



藤川由菜さんと



同居する柏原知さん



新屋地区の伝統行事である鹿嶋祭は400年の歴史を
刻む秋田市無形民俗文化財。無病息災を託した人形
に乗せた鹿嶋船を子どもたちの手で曳いて練り歩
く。町内の人形作りのお手伝いで、目を入れた。

6月



高校生クリエイティブキャンプ

全国の高校生を対象に「超おもしろい」合宿を募集した「高校生クリエイティブキャンプ」
の記録チームとして、写真撮影を担当。秋田を訪れた高校生たちの熱い夏を撮す作業は、
「ずっと一緒にいて、その時その時の表情を切り取らせてもらえる幸せな時間でした」

8月



シェアハウス藤の家



みんなで作ったクッキー



頼りがいのある大家さん

2月

1階はキッチンとリビング。2階にはそれぞれの部屋がある。「何より安心感があっていい。
夜、明かりが灯った家に戻るとホッとします」



しんめんモクまめカ

美大サテライトセンター（フォンテ AKITA 6階）のギャラリーで藤川由菜さんと展覧
会「しんめんモクまめカ」を開催。藤川さんは「まちづくり」を楽しい切り口で、内記
さんは新屋地区の人との交流をもとに新屋表町の過去と現在を特殊な技法を使った写真
で表現。

11月

秋美周辺MAP

秋田公立美術大学は、秋田市内にありながら海や川などの自然にも囲まれた特立地。周辺には歴史ある家屋も並んでおり

美術を学ぶにはもってこいの環境です。春夏秋冬で様々な表情を見せる秋田で学生生活を思う存分楽しみましょう！

秋田県庁・市役所方面

24時間営業のスーパーやホームセンターなどの生活に役立つ施設が豊富！

雄物川花火大会

毎年夏に美大のそばの雄物川で花火大会が開催されます！約7,000発の花火が打ち上げられ、水辺にナイアガラ仕掛けの花火を写すほか、花火と音楽をコラボレーションさせた創造花火や地元の中학생によるデザイン花火などオリジナリティに富んだ内容です！

秋田公立美術大学

大森山

動物園方面

動物のスケッチに最適！秋美とのコラボで「大森山アートプロジェクト」が毎年開催されます！冬の期間も「雪の動物園」が開催され、普段は見ることのできない雪と戯れる動物たちの姿を見ることができます。

新屋駅

美大～新屋駅間は徒歩15分です。

秋田駅方面

二駅で秋田駅まで簡単にいられます！画材店や雑貨店などの買物スポットだけでなく、ギャラリーや美術館も。

CAMPUS MAP



講義棟・アトリウム棟

- | | | |
|----------|------------|-------------|
| 講義室 | 大講義室 | パッケージデザイン室 |
| コンピュータ室 | CALL室 | グラフィックデザイン室 |
| 漆実習室 | ウェブデザイン室 | 美術教育センター |
| 織実習室 | イラストレーション室 | 絵画実習室 |
| 染色実習室 | | |
| 糸染室 | | |
| 保健室 | | |
| キャリアラウンジ | | |

秋美ってどんな感じ?

レストハウス

大学附属図書館

開放的な空間のレストハウスは学生のコミュニティスペース。1階と2階がカフェテリアになっているほか、学生ホールや談話室、掲示板なども備わっています。授業に必要な教材や用具、生活用品が揃う売店もあります。

校外

- > 美大サテライトセンター
- JR秋田駅西口の商業ビル「フォンテAKITA」6階。教員や卒業生などの作品展示、講座やデッサンスクールなどを開催します。
- > BIYONG POINT
- CNA秋田ケーブルテレビ社屋内にある大学ギャラリー。招へい作家による展覧会やトークイベントを開催しています。



学食もあるよ

作品の展示もできます

コンピュータ室

講義棟1階。講義時間以外は開放され、自由に作品制作を行うことができます。

- ・Macintosh 118台
- ・情報教育用PC(Windows) 41台

IllustratorやPhotoshopなどが自由に使えるよ

来週講評だよ

プレハブ棟

- > 北棟
授業スペース1、2 / 器具・倉庫1
- > 南棟
学生制作スペース / 器具・倉庫2 作品倉庫

申請すると制作スペースが借りられます!!

芸術は△=％だよ

その他

- > 創作工房棟
- ビジュアルアート構想室
- ビジュアルアート準備室
- 立体・インスタレーション室
- ミーティングルーム 制作室1・制作室2
- 助手控室
- > 彫刻実習棟
- 造形室 / 木彫室 / 彫刻準備室 / 石彫室

サークル棟では軽音サークルやダンスサークルが活動しているよ

- > サークル棟
- 学生共用室
- > 大学院棟
- 院生室
- 作業室
- 会議室
- > 体育館

授業のほか、スポーツ系のサークルでも使用しています

バドミントン バスケ バレー etc...

ゴール!

グラウンド

いい感じ♪

新屋駅

秋田市立新屋図書館が併設されています

実習棟

- | | | |
|---|---|---|
| > 実習棟 A
景観デザイン演習室
モデル制作室
素描室
彫塑実習室
彫塑準備室 | > 実習棟 B
彫金実習室
金工機械室
金工準備室
金工着色塗装室
鋳物場
ガラス実習室
ガラス準備室
石膏造形室 | > 実習棟 C
木工機械室
木工実習室
木工準備室
陶芸実習室
ガラス加工室
ガラス成形・窯室 |
|---|---|---|

アトリエももさだ

- | | |
|---|---|
| > 工芸体験棟
木材・金属実習室
造形室
ガラス工芸室
繊維工芸室
モデル室 | > ギャラリー棟
会議室 / 収蔵室 / 作品展示室 / 市民ギャラリー |
|---|---|
- > 地域交流棟
多目的ホール
レストコーナー蔵詩

1

2

3

アラヤイチノ、新屋NINO、あらやさん

空き家を改修したレジデンス施設やギャラリースペースです。学生による作品展示や滞在制作など、実践的な演習・発表の場として活用しています。

卒業生 インタビュー



京極美咲さん（株式会社 KADOKAWA）

ビジュアルアーツ専攻（2018年3月卒業）

自由な学び、自由な発想

美術部だったわけでも絵を描いていたわけでもありませんでしたが、地元にあった美大に惹かれて入学しました。学んでから専攻が決められるカリキュラムであることも魅力でした。大学生活で印象に残っているのは、軽音サークルでの活動や制作活動、学祭などです。

その中でもチームで制作したり、学外の人と関わることでコミュニケーション能力や計画的に制作する力が養われていたのかなと思います。

学内の人に限らず、地域のひととの関わりが多い学生生活でした。

現在は、イベントの企画・運営の仕事をしています。昨今、企業が求める人材として「クリエイティブ力のある人」と言われていますが、秋美での制作や講評会、グループワークなどで学んだ基本的な力が取引先へのプレゼンや新規事業の社内コンペ、複数のタスクを計画的に進めていくことに役立っていると思います。

今思えば、学生生活はとても自由で有意義な時間でした。自由な学びから自由な発想ができる環境だったことが今の自分をつくっていると思います。



石元隆文さん（株式会社 ジェイアール東海エージェンシー）

コミュニケーションデザイン専攻（2019年3月卒業）



違う分野の友人たちと刺激し合えた

鹿児島で育ったんですが、田舎の環境にずっとコンプレックスを抱いていて、何をしても閉塞感があったんです。でも青春18切符のポスターに祖父の家の近くに広がる菜の花畑の風景写真が使われていて。そのきれいなポスターを見て、価値観が180度変わりました。それからの高校生活のなかで、駅で写真を撮ったり、旅の情景を伝えるポスターを作ったりして、こんな仕事をしたなと思っていました。秋美は学生数が少ないので、デザイン、アート、建築、ものづくりと、いろいろな分野の友人と関わり、刺激を受けることができました。デザイン専攻であればデザインをするタイプのひととの関わりが多いと思うのですが、僕の場合は違う分野の友人たちの存在が自分を高め、成長させてくれたと思います。教職課程の履修、学芸員資格の取得、大学祭の実行委員長、アルバイトと、大学でやれることはすべてやって、濃厚な時間を過ごすことができたことは結構、気持ちいいですね。先生方に恵まれたこと、大学事務局の方に支えてもらったこと、個性豊かな友人たちと過ごしたこと、そういう環境のなかで何でもやらせてもらった日々は、宝物だったと思います。



小川みのりさん (株式会社 バンダイナムコスタジオ)

コミュニケーションデザイン専攻 (2019年3月卒業)



先生に褒めてもらいたくて

私はいろいろなことがしたくて、それを、いろいろな人に伝えたくて。もともとは水彩画を描いていたんですが、みんなで描いて、それをたくさんの人に見てもらいたくてライブペイントサークルを始めました。大森山動物園では動物たちの壁画を描いて、みんなに見てもらえるのが嬉しかった。私は、人に伝えたいという思いが強いんです。水彩画で絵本を作っているんですが、それも自分の気持ちを伝えたい、人の気持ちを動かしたいと思うからです。バンダイナムコに就職して、ゲームの仕事が始めます。ゲームと言っても遊びだけでなく、教育やスポーツに関わったり、病院で使われたりいろいろな場面で応用されています。ゲームは自己投影しやすく、心に残りやすい。ゲームを作ることは手段で、多くの人と繋がりたいというのが私の性格なんだと思います。秋美では、学びのなかで地域の人とたくさん接することができました。受け入れてくれて、協力してもらえたのがありがたく、地域の人が大好きでした。先生もすごい好き! どうやら褒めてもらえるかと考えながら大学に通っていましたね。



田中里姫さん (秋田市新屋ガラス工房)

ものづくりデザイン専攻 (2018年3月卒業)



宇宙っぽいのが好き。挑戦を続けています。

3年生の時にものづくりデザイン専攻に入ってから、初めてガラスに触れました。最初の講評会の時に全然うまくいかなくて、先生方に注意されて。だから「次は絶対やってやるぞ」と思って、初めて本気でガラスと向き合いました。ニューヨークのアーバングラスのサマースクールに参加してからは、ガラスで作品を作ることに夢中になりました。卒業制作は妥協せずに、これまでにないくらいの集中力で作ることができました。その時にやっと、作品を制作するとはどういうことなのかを感じることができたかなと思います。秋美で学んだ技術はもちろん、ガラス工房での制作に役立っています。これは丸いガラスの中にガラスを入れて、宇宙のような、あるいはシナプスのようなものにしてみました。工房では商品を作るほか、自分の研究として実験を重ねています。新しいことに挑戦させてもらえるのって、ほんとありがたい環境だと思います。



細矢艶子さん (株式会社 SeeVisions)

ものづくりデザイン専攻 (2018年3月卒業)



卒業制作を見てくれた落語家さんから連絡が!

秋美での4年間はとても楽しかった。自分が何を作りたいのか、考えすぎて分からなくなった時期とか、投げ出したいと思った時もあったけれどいい思い出です。先生にはふわっとしていた自分を受け止めてもらって、作品をつくる目的やコンセプトを常に深く問いかけてもらえたことが今のグラフィックデザインの仕事に役立っていると思います。私は平面を考えるのが好き。パソコンに向かってグラフィックデザインはするけれど、手を動かすアナログな作業も好き。だから染色はとても楽しい時間です。卒業制作では型染めで「トリドリ」という作品を作りました。日常に溢れている音を言葉に変換して、「ぼきぼき」「ぶかぶか」などの音を柄にしました。それが秋田空港の到着ロビーに展示されていた時に、秋田を訪れた落語家さんが見てくださっていて。作品のコンセプトを理解してくださって、「三遊亭ぼん太」なので「ボンボン弾むイメージで」との依頼を受けて、二つ目に昇進するときの名刺がわりとなる手ぬぐいを作りました。ボンボンと弾むボールのなかに、表情豊かに噺をなされる落語家さんをイメージしてところどころに顔を配置しました。このお話をいただいた時は、震えるほど嬉しかったです。



吉田一也さん (株式会社宗本晋作建築設計事務所)

景観デザイン専攻 (2017年3月卒業)



枠がなくて自由!

秋美は1、2年次に、いろいろな芸術分野を横断的に学べるのがいい。何事にも、多様な視点から捉えることができるようになりたいと思って志望しました。学生にとって秋美は、まだ開学したばかりで年数がたっていない分、枠もなく自由でした。少人数だから、先生と過ごす時間が多かったことも他大学にはない良さだと思います。景観デザイン専攻では、プレゼンの時に製図やモデリングなどさまざまなソフトを使って資料を作成します。それが現在の設計の仕事に役立っているのももちろんですが、それ以上に、デザインの意図を相手に伝えること、伝えたい情報とその伝え方を明確にして作業を進めることなどに生かされていると感じます。学生生活では、雪まつりの雪像コンテストで優勝したり、ダンスや軽音サークル、冬はスノーボードをしたり。淡路島出身の僕は入学して初めて秋田の竿燈まつりを知り、夏は練習に明け暮れました。2年目、3年目には竿燈の技を競う妙技会にも出場。最後は風が強くて、うまくいかなかったんですが。夏は今も京都から秋田に来て竿燈まつりに参加しています。それぐらい、自分にとって秋田は大事な土地になりました。



小山真実さん (SOU・SOU)

コミュニケーションデザイン専攻 (2017年3月卒業)



ちょっと違う、新しいデザインの日本文化を

宮城県出身で、東北にある美大であることに惹かれて入学しました。サークルはダンス、ソフトテニス、アウトドア。その他、学祭準備、田沢湖での雪像作り、卒展準備、アルバイト、それに授業の影響でカメラにはまったりとアクティブに過ごした学生生活でした。1期生は仲良かったので、仲間と過ごした時間が印象に残っています。専攻の垣根を越えて研究室を訪ねたり、いろいろな先生からアドバイスをもらえたのは秋美だからこそできたのだと思います。震災で失った祖父の呉服店を蘇らせたいと、卒業制作は小山呉服店というコンセプトで制作しました。呉服まわりの産業は衰退しつつあるからこそ、形にとらわれないデザインであったり、かわいいものでありたいと思っています。入社した SOU・SOU との縁は、社長の著書に衝撃を受けてインタビューに行ったのが始まりです。「もし東北に SOU・SOU があったら」というコンセプトで自主制作したり、ポートフォリオを持って行けたのは先生のアドバイスがあったから。いつも親身になって、一緒に考えてもらえた環境に感謝しています。



須賀亮平さん (秋田公立美術大学大学院修士課程複合芸術研究科)

ビジュアルアーツ専攻 (2017年3月卒業)



ここには風が吹かない。
飛砂を恐れた人々は、
国から風を消し去った。
それからある異変が起きた。
人々は嘔吐という原因不明の病に
侵されてしまったのだ。
そんな世界で風を求めた人々は
彼岸という幻の楽園を目指した。

いろいろな角度から、いろいろな視点と価値観で

1期生として入学して、ビジュアルアーツ専攻で学びました。素材や表現手法にとらわれない分野横断を基本とした美術表現を探って、もっと制作を続けたくて大学院へ。現在は映像作品を作っていて、2年前と同じようにもっと制作を続けたくてしばらくは秋田にいたいと思っています。札幌市の出身なのですが、都会よりも田舎の時間の流れがとても好きなのと、秋美のある新屋という土地がどう変化していくのかということも気になっています。秋美には、専門性や価値観がまったく違う先生や学生との交流の中で、自分の価値観が揺らぎながらも相対的に自己の表現を確立していくことができる魅力があります。それは社会の中で自分がどういう立ち位置で表現活動をしているのかということを見出すことにも繋がっていて、今の世の中で戦っていく上で重要な要素になっています。僕ははじめ、絵が好きだからという理由でなんとなく油画をやっていたのですが、自分が持っていない価値観や表現を知ること、作品がどんどん変化していきました。それと同時になぜ作るのかという問いに対する回答を自分の中で明確に持てるようになり、自分の表現を見つけることができたのではないかなと思います。



野呂祐人さん (情報科学芸術大学院大学 [IAMAS] 修士 2 年)

アート&ルーツ専攻 (2017年3月卒業)



クリエイティブパワーが渦巻いていた

秋美が開学した時に入学しました。「新しい美術の大学、しかも不思議な専攻ばかり！」という部分に魅力を感じて、思い切って受験しました。開学したてということもあって、「ワクワクすることをしよう！」というクリエイティブパワーが学内に渦巻いていました。そんなパワーあふれる教員や学生ととにかく何かをやりたくて、展示やイベント、卒展の運営など多くの場に関わりました。アート&ルーツ専攻では、芸術作品をつくるだけでなく、それを芸術以外の領域に広げ、地域とどう芸術を接続するかという活動をしました。全て上手くいった訳ではありませんが、学内、学外のたくさんの人と繋がれたことが一番の財産です。一人暮らしでしたが、みんなで工房にこもったり誰かの家に集まったりしていたので、ほとんどの時間を学生同士で過ごしていた感覚です。教授の制作アシスタントをしていた時が一番楽しく、勉強になりましたね。現在は、参加者同士が言葉を使わずに一緒にものづくりをするワークショップを開催して、コミュニケーションのあり方を探っています。作品制作を通して他者と繋がる面白さを知った秋美での体験をもとに、研究を続けています。



目黒里香さん (秋田市役所 中央市民サービスセンター)

景観デザイン専攻 (2017年3月卒業)



地域に出て、より市民の近くで。

秋美は少人数制で地域密着型の大学というのが魅力。先生や地域との距離が近いので、個の存在が強調されて主体的に学べる環境でした。私にとっては、正解も不正解もないデザインという曖昧なもの向き合うことが自体が挑戦でしたね。演習では、相手に伝える難しさを感じて発表するのが苦手だったのですが、次第に「いいアイデアだね」「発表うまくなったね」と言ってもらえるようになったことが自信になりました。

福島県出身で、仙台の高専に通って秋美には3年次に編入。学んだことを秋田に返したくて、秋田市役所に就職して現在は中央市民サービスセンターにいます。協働・分権担当として、これまでまちづくりの担い手を育成するための講座やイベント、活動団体への助成金交付などの仕事をしてきました。大学で調査・分析した秋田の魅力や課題は、事業を企画する上でとても役立っていて、鍛えてもらったプレゼン力も事業説明の時のベースになっています。できるだけ地域に出て行って、市民により近い立場に立ってほしいと思います。



郡山知也 (堺市立南八下中学校 教諭)

景観デザイン専攻 (2017年3月卒業)



美術の先生の引き出しを作る4年間

秋美に入る前から学校の先生になりたいと思っていました。そう志望して学生生活を送っていたはずなのに、実際に教員になってみるともっと勉強しておけばよかったと思うことばかりで。今になってから、秋美の先生方の言葉の意味やその深さを痛感しています。

秋美での最初の2年間は全ての専攻を横断的に学びます。それは、美術の教員というあらゆる分野を教えなければならない職業に合ったカリキュラムでした。全ての専攻を経験できたことで、特定の分野だけでなく、たくさんの引き出しを作ることができたんじゃないかと思います。日々学生生活を振り返りながら、これまでやってきたことを生かして仕事をしているのだと思います。

1期生はとにかく「何かやってやろう」という気持ちの強い学生が多かったですね。僕は学生会役員として活動したり、学生たちで集まって展示会の企画をしたり、振り返ってみると充実した学生生活だったなと思います。新しい大学だったからこそ、できたことなのかもしれません。



秋田公立美術大学
〒010-1632 秋田県秋田市新屋大川町 12-3
JR「秋田駅」から羽越本線「新屋駅」下車 徒歩 15分
JR「秋田駅」から秋田中央交通バス・新屋線
「美術大学前」下車 徒歩 1分
電話：018-888-8100 (代表)
018-888-8105 (学生募集・入試)
FAX：018-888-8101
E-mail：soumu@akibi.ac.jp (大学)
kyomu@akibi.ac.jp (学生募集・入試)

制作 NPO 法人アーツセンターあきた
デザイン 大島慶一郎
秋田公立美術大学
コミュニケーションデザイン専攻
(足立遥香、阿部晶絵、
川上萌、千葉このは、太田凜)
写真 高橋希
印刷・製本 秋田活版印刷株式会社

※乱丁・落丁等はお取替いたします。
※本誌内容の無断転記、転載、複製はご遠慮ください。
※本誌データは2019年3月末日現在の情報です。
あらかじめご了承ください。

